

## 第7回 名取川・阿武隈川下流等大規模氾濫時の減災対策協議会

### 議事概要

日時：令和2年1月15日（水）13時00分～15時00分

場所：仙台河川国道事務所2F 大会議室

委員出席：仙台市危機管理監、白石市長（代理：危機管理課長）、名取市長、角田市長、岩沼市長（代理：副市長）、蔵王町長（代理：総務課長補佐）、七ヶ宿町長（代理：副町長）、大河原町長（代理：総務課長）、村田町長、柴田町長、川崎町長（代理：副町長）、丸森町長、亙理町長、山元町長（代理：総務課長）、気象庁仙台管区気象台気象防災部長（代理：気象防災情報調整官）、宮城県総務部長（代理：危機対策課副参事兼課長補佐）、宮城県土木部長（代理：技監兼次長）、宮城県仙台土木事務所長（代理：河川部長）、宮城県大河原土木事務所長（代理：副所長）、宮城県仙台地方ダム総合事務所長、釜房ダム管理所長、七ヶ宿ダム管理所長、仙台河川国道事務所長

#### (1) ●台風19号に伴う出水概要について

##### ●名取川・阿武隈川下流における今後の防災・減災対策の方向性【案】について (仙台河川国道事務所)

関係機関が連携しハード整備・ソフト対策が一体となった流域全体における総合的な防災・減災対策の方向性案及び今後の治水・減災対策のスケジュールについて説明

⇒

- ・ 住民への避難情報の発信として、発災後の道路状況や危険箇所等の情報の共有、発信の仕方も項目の一つとして議論していくべきである。(大河原町)  
→今回道路の冠水は避難や支援の妨げになることを痛感した。河川だけでなく周辺の情報を含めてしっかり共有・発信できるように、メニューの中に入れて検討していきたい。(仙台河川国道事務所)
- ・ 五福谷川は川幅が狭い状況で、五福谷橋のピア（橋脚）を解消しなければハード整備による河道掘削や樹木伐採をしてもまた同じような被害が起きてしまうのではないかと懸念している。(丸森町)  
→五福谷川・内川に関しては専門家を交えた検討会を進めている。河川の中にある構造物等も考慮し検討していきたい。その際は丸森町や関係機関と意見を交わしながら進めていきたい。(宮城県)
- ・ 国・県・市それぞれの管理河川があるが、各機関が連携して整備にあたっていただきたい。また、今回樹木伐採していただいたことにより初期段階の流れが非常にスムーズで効果的であった。河道掘削についても相当効果的だろうと考えているので早急に実現させていただきたい。(角田市)

- ・それぞれの管理の責任の限界点はあるが、各管理者がしっかり連携を取り、ちぐはぐな整備にならないよう進めていきたい。(仙山河川国道事務所)
- ・河川において一番早く効果を発揮できるのはやはり河道掘削と樹木伐採であり、平成 27 年関東・東北豪雨を踏まえて全体的に予算を抑えて進めてきたが今もお不足している現状。今般、国土強靱化もあり補正予算をいただけることになったので、各市町と話し合い必要な箇所から重点的に取り組んでいきたい。(宮城県)

## (2) 各自治体での今後の防災・減災対策の方向性について・意見交換

### ● 山元町

- ・ 12 月議会の際にハザードマップの見直し(平成 20 年作成)やタイムラインを住民に浸透させる取り組みについての意見が出た。
- ・ 想定最大規模でのハザードマップを現在作成しており、今年の出水期前までには全戸配布及び町民への説明を行う予定。
- ・ 災害種別ごとに避難すべき指定緊急避難場所・指定避難所・辿るべき避難経路を住民一人一人に理解していただける取り組みを進めたい。

### ● 丸森町

- ・ 台風 19 号では排水能力を超える豪雨により丸森地区の中心部で大規模な内水被害が発生し、避難所である町づくりセンターが浸水により孤立状態となった。地形上、他に適当な避難施設を設けるのは難しいため、排水機能の強化が必要不可欠であり国・県と協議しながら実現させたい。
- ・ 阿武隈川の支流、内川など 3 つの支流では 18 カ所で堤防が決壊など、甚大な被害が発生した。より迅速で的確な避難誘導のためにはそれぞれの河川ごとの浸水想定域の設定が必要で、ハザードマップへ反映し、住民への周知が大事であると考えている。
- ・ 被災した地域の住民が住宅を再建することに不安を感じている。今後策定予定の復旧・復興計画の中で検討していきたい。

### ● 柴田町

- ・ ハード整備として阿武隈川合流地点から白石川上流約 3.3km 左岸側の排水樋管(古河水門)に雨水ポンプ場施設整備などを関係機関に要望する。
- ・ 町民の水防災意識の向上のため、消防団、婦人防火クラブ、民生児童委員、自主防災組織、消防署、社会福祉協議会、防災士、防災指導員で構成する災害対応連絡会議を開催している。
- ・ 水害対応タイムライン、内水ハザードマップを作成し住民に理解していただくことが重要。
- ・ 五間堀川の整備促進と、押分水門の操作状況など、管理施設について、どのように運用をされているか情報共有願いたい。
- ・ 国・県・自治体で管理している施設について、操作マニュアルを共有し、適確な操作マニュアルの作成が必要である。

- ・ 短時間の大雨が発生する危険性が高まった場合、夜間においても避難勧告等を発令しなければならぬが、状況によっては二階への垂直避難も十分有効である。一方急激な水流が押し寄せてくる可能性のある地区やかなりの浸水深が想定される場合は家屋や人命に危険が及ぶことがあるため一刻も早い避難行動が必要となり、そういった夜間における避難情報の出し方を今後協議会で深めていきたい。

#### ● 大河原町

- ・ 昨年度末にハザードマップを作成し去年の 4・5 月で全戸配布、町民への説明会を開催した。今回の台風時の雨が 2 日間降り続ければハザードマップの想定を十分に超えていたと考えられる。
- ・ 9 カ所で避難所を開設、避難者数は 1455 名となり職員を 8 カ所に配置したが、駐車場の整備まで行い、職員の負担が大きく、今後の課題である。
- ・ 実際、河川が氾濫した場合、概算で 1 万 4000 人の避難者が見込まれており、現在の避難所数では足りないため垂直避難等の啓発をする必要がある。
- ・ 被災証明を 435 件発行し、そのうち自動車の水没が 259 件であった。町の中に高い所がないため、まず自動車をどのように、どこに逃がすのか、今後、町としての課題である。
- ・ 水門付近での内水被害が大きかったため、支川の河道掘削や樹木伐採を今後進めていきたい。

#### ● 蔵王町

- ・ 今年度 9 月にハザードマップを作成し、10 月に全戸配布済み。今回は台風 15 号を上回る想定でできるだけ高台の避難所を設定し、通常の台風や大雨では 10~20 名ほどの避難者数が今回は 260 名を超える避難者数であった。これが功を奏し大きな被害はなかったが、今回の台風を経験し被害がなかった住民の方が今後家においても安全ではないかと考えていることを恐れている。そのため来年度は防災マイタイムラインを作成、配布していきたいと考えている。
- ・ 町内 23 行政機関のうち 17 自主防災組織が立ち上がっているが、今回自主防災組織の協力を得て町内 23 カ所の避難所を開設することができ、今後も協力して取り組みたい。
- ・ 今年度中に防災サイレンスピーカーを町内全域に設置し終える予定。
- ・ 松川に堆積した土砂撤去について、県で対応願いたい。

#### ● 角田市

- ・ 堤防高が低く、大量の内水を排水したため江尻地区で計画高水位を超過した。坂津田地区や江尻地区の国道 349 号兼用堤について、国・県が連携して、施設の強化をしていきたい。
- ・ 下名生地区の堤防整備を進める計画になっているが漏水箇所が複数あるので早く進めていきたい。
- ・ 江尻排水機場等の排水能力機能強化について、関係機関に働きかけたい。
- ・ 発災時にドローン等を活用して現場の状況を把握し、被害状況を隣接市町で共有・連携

していきたい。

- **白石市**

- ・ 今回開設した避難所において、大雨による影響で被害の恐れがあり、3カ所の避難所を移動した。風水害時の開設避難所についての課題が残った。
- ・ 今年度ハザードマップを作成中、今年全戸配布予定。
- ・ 今までは地震を中心とした総合防災訓練だったが今後は水害を想定した訓練を検討中。

- **仙台市**

- ・ 議会において笹川樋門における排水機場の整備を求める意見があった。排水機場の新設等の整備について、国・県で連携を図り、取り組んでいきたい。
- ・ 排水ポンプ車の迅速かつ適切な配備が行えるよう、増強を要望。
- ・ 台風19号の際笹川樋門でのゲート操作が遅れたため、浸水被害を拡大させた可能性があるということで、樋門操作に関して再発防止に努めていただきたい。

- **名取市**

- ・ 台風19号の際、開設した自主避難所である公民館が冠水した。また土砂災害警戒区域にかかっているため開設できない避難所もあり、避難所が足りない。災害種別ごとの開設避難所の再検討が必要。
- ・ 市内の特別支援学校を福祉避難所として開設できるようお願いしているところだが、受け入れ後の職員体制等が難しいという話も出ている。
- ・ 避難所においてペットは避難所に入れないことを原則としているが、台風19号の際ペットの同行があり、避難者スペースから離れた飼育スペースの確保が必要。
- ・ 冠水現場の画像データを文字やラジオ放送だけでなくSNS等を活用し住民に提供する情報発信手段の拡充の構築を現在図っている。
- ・ 車輛の緊急避難場所の確保について、立体駐車場のある店舗等と協定を結び避難場所の確保を進めている。
- ・ 備蓄場所の確保について、台風19号の際に冠水して使用できなくなった備蓄品もあった経緯から、リスクの少ない備蓄場所の再検討を進めていきたい。

- **岩沼市**

- ・ 台風19号時の市民の動向を調査すると、身の回りに具体的な危険を感じて初めて避難行動をとる方が多数だと分かった。しかし実際に避難を始める時には既に道路が冠水している状況であったため、避難所開設や避難開始指示のタイミングを大幅に前倒していこうと考えている。
- ・ 洪水ハザードマップと内水ハザードマップを比較し、地域ごとに、垂直避難や避難所への避難等、具体的な避難行動のイメージを市民に周知・共有していきたい。
- ・ 押分排水機場のおかげで内水被害が相当おさえられたが、現在毎秒40トンの排水能力を、本来の計画毎秒90トンの整備をお願いしたい。

- **七ヶ宿町**

- 白石川の上流の河道掘削と樹木伐採をお願いしたい。

- **村田町**

- 白石川と新川、荒川でバックウォーターが起き、排水機場が機能せず排水する場所が無い  
ため最終的に浸水被害に遭っていることから、バックウォーター対策の強化を県に  
要望したい。
- 町として今回避難指示を初めて出したが、平屋の家の方が避難できずに自衛隊に救助  
要請をした事例があった。住民への避難情報の共有の徹底をする必要がある。
- ハザードマップを今年新たに作成予定。その際には防災会議等を開催し住民に徹底し  
ていきたい。
- 自助・共助として地域の自主防災組織の強化をし、「自らの命は自らが守る」意識を住民  
に徹底していきたい。

- **川崎町**

- 支倉川においては、越流を確認したが浸水エリアが水田等の農地であり、町道が通行止  
めになったものの住宅等への浸水被害はなかったが、河道に土石や流木等が見受けら  
れた。県による河道掘削を実施していただいたがまだ完全ではないため、早急に河道掘  
削をしていただきたい。
- 他市町から見て浸水被害は軽微だが土砂災害が多いため、これまで大きな水害を経験  
していない町民の方に如何に危機感を持って早めの避難を促すかが今後の課題となっ  
ている。

- **亘理町**

- 5段階の警報レベルについて、広報誌やホームページ、総合防災訓練において周知して  
いる。レベル4の中に避難勧告と避難指示が入っており、タイムラインを用いて周知し  
ているが住民にとって理解しづらく、避難に対する意識が低いのが実情。
- 今回、台風が通過し雨が弱まった後に阿武隈川の水位が急激に上昇し、避難指示を発令  
した。避難判断水位や氾濫危険水位の見直しを検討する必要があるのではないかと  
思う。
- 近隣の市町のエリアメールを全て受信してしまうため、住民にとっては情報の整理が  
難しいことから、検討いただきたい。
- 内水被害が多発したことから、今後、関係機関の支援のもと内水ハザードマップ作成の  
検討を考えている。
- 雨水排水は海へ自然排水しているが、台風時は低気圧が重なるため海水面が上昇し、排  
水が機能せず内水被害が起きやすい。内水対策を考慮した排水機場の整備をしてい  
ただきたい。

### (3) 情報共有

#### ●台風 19 号に伴う出水時の対応について (宮城県)

⇒

- ・ 水位周知河川に指定されていない川内沢川では水位が分からず消防団が現場にて肌感覚で状況を判断せざるをえない状況。住民避難の呼び掛けをする判断材料・基準を一緒に検討していき、その情報を是非いただきたい。(名取市)
  - 水位周知河川に指定しなければ水位計を付けられないものではないので要望を聞きながら順次付けていきたい。川内沢川のような流域の小さな河川は、雨が降った後すぐに水位が上がるため、水位が高くなる前に避難指示を出さざるを得ず、空振りの可能性が高いなどといった課題が出てくる。そういったリスクを含め関係市町と検討し今後に備えていきたい。(宮城県)
- ・ 雉子尾川の対策について、工場団地の造成計画もあるため早急に方向性を決めていただきたい。また行政区長や水防団などの町民の声をしっかりと反映していただくような場を設けていただけるようなことが考えられないものか。(丸森町)
  - 雉子尾川については現在技術的な部分に関して検討を進めている。引き続き地域の皆様と話し、河川の整備だけでなく、まちづくりも一緒に進めていきたいと考えている。(宮城県)
- ・ 今回柴田町の五間堀川から阿武隈川がハイウォーターになったため排水できない状態が1時間以上続いたことから、阿武隈川の管理河川施設、水門や樋門の操作基準や水門操作員の避難行動を明確化し、担当者会議を開いて情報共有をしていただきたい。また、洪水注意報や大雨警報、特別大雨警報、さらに警戒レベル1から5、避難勧告や避難指示等言葉が多く町民にとって理解が難しい。そこで東北地方整備局や仙台管区气象台、県、市町、放送局、携帯電話会社、自衛隊、消防署等の機関が連携し、情報提供のマニュアルのようなものを作成し効果的な情報の提供の仕方を考えていただくのはどうでしょうか。(柴田町)
  - 五間堀川の樋門と排水機場は構造が非常に複雑で、樋門を開閉するしっかりとしたルールはあるが、改めて今回どのような課題があったのか点検し改善していきたい。情報の共有の仕方については、現状では自衛隊やメディアに対しては一方向での情報周知しかないため、必要な情報をどういうタイミングでどこで共有するか、今後マスコミとの勉強会も開いていきたい。(仙台河川国道事務所)

#### ●「危険度分布」とリスク情報を重ね合わせて表示 (仙台管区气象台)

⇒

- ・ 警戒レベル4とか5という表記は町民にとってはどう行動して良いか分かりづらい。それが避難準備段階であるとか避難勧告、指示の段階だということをこの危険度分布のマップに付け加えるのはどうだろうか。今は気象情報だけで判断できることがたくさんあるため、市民レベルでわかる内容に少し変えてもらおうと随分わかりやすくなってくるのではないか。(角田市)

→警戒レベルに対する用語（避難勧告や指示）は内閣府の防災を司るところで決められていて、今回の台風19号を踏まえての課題を再検討していることだろうと思う。危険度分布のマップに用語を付け加えることに関しては、ホームページに表示するため、むしろ説明がいっぱいになり見づらくなる可能性がある。もし市民の方々にとってわかりづらいということであれば市民の方々に対する勉強会等もあれば我々も協力させていただきたい。（仙台管区气象台）

- 台風19号出水における七ヶ宿ダムの効果（七ヶ宿ダム管理所）
- 台風19号出水における釜房ダムの効果（釜房ダム管理所）